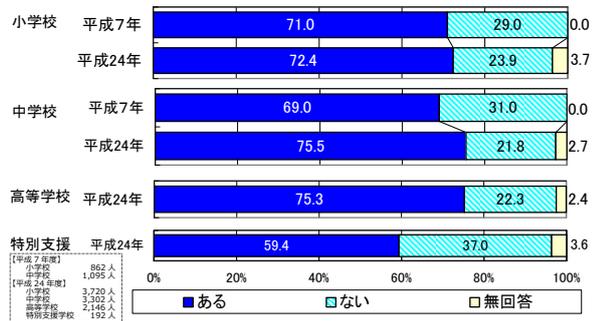


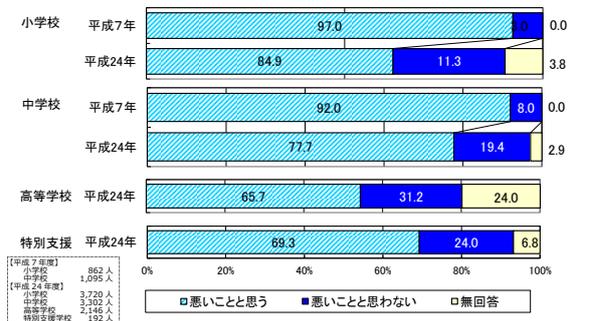
第2章 いじめ問題に関する意識

1 子供の意識

授業中におしゃべりをすることがありますか

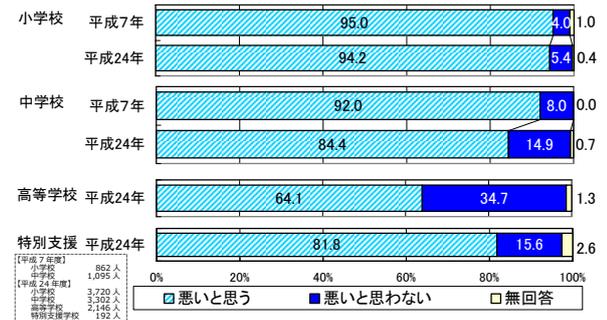


授業中のおしゃべりを悪いことと思いますか

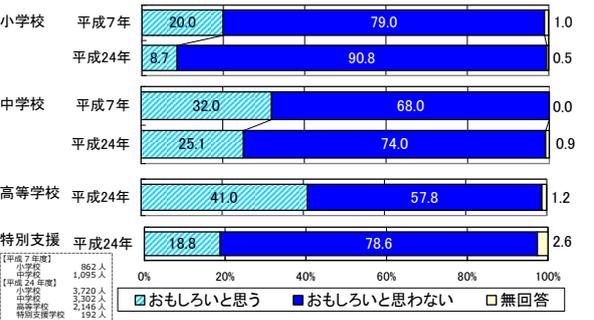


「授業中におしゃべりをすることがあるか」という質問に対して、小学校、中学校ともに、平成7年度よりもおしゃべりをする児童・生徒が増加している。「授業中のおしゃべりを悪いことと思うか」という質問に対して、小学校、中学校ともに、悪いことと思う児童・生徒は減少している。おしゃべりを悪いことと思う児童・生徒は、小学校で84.9%、中学校で77.7%、高等学校で65.7%、特別支援学校69.3%であった。

クラスの誰かをからかうことを悪いと思いますか

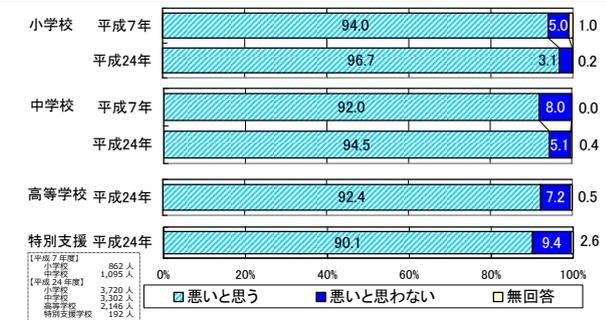


クラスの誰かをからかうことをおもしろいと思いますか

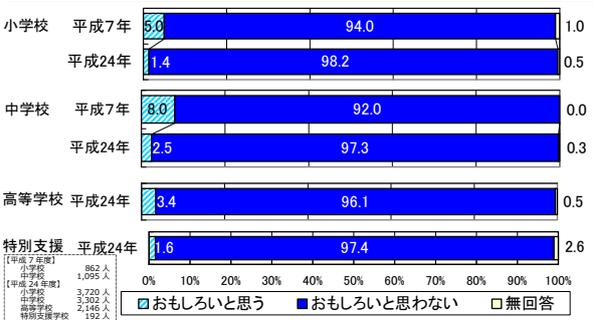


「クラスの誰かをからかうことを悪いと思いますか」という質問に対して、年齢が上がるにしたがって「悪いと思う」児童・生徒が減少している。「クラスの誰かをからかうことをおもしろいと思いますか」という質問に対して、「おもしろいと思う」小学校、中学校の児童・生徒は、平成7年度に比べて減少している。からかうことを「おもしろいと思う」児童・生徒は、小学校で8.7%、中学校で25.1%、高等学校で41.0%、特別支援学校で18.8%であった。

特定の人を仲間外れにしたり、無視したりして口を利かないことを悪いと思いますか

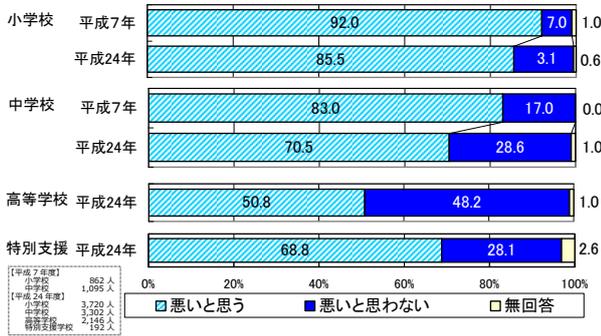


特定の人を仲間外れにしたり、無視したりして口を利かないことをおもしろいと思いますか

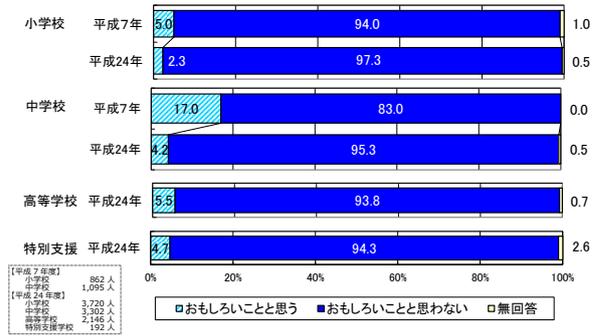


「特定の人を仲間外れにしたり、無視したりして口を利かないことを悪いと思いますか」という質問に対して、児童・生徒は96%以上が「悪いと思う」と回答している。平成7年度と比べて「悪いと思う」と回答する割合は高くなっている。また、「特定の人を仲間外れにしたり、無視したりして口を利かないことをおもしろいと思いますか」という質問に対して、「おもしろいと思う」児童・生徒は、平成7年度に比べて減少している。

先生に反抗することを悪いと思いますか

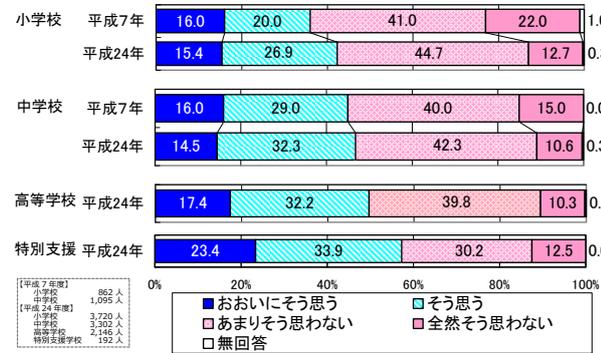


先生に反抗することをおもしろいと思いますか

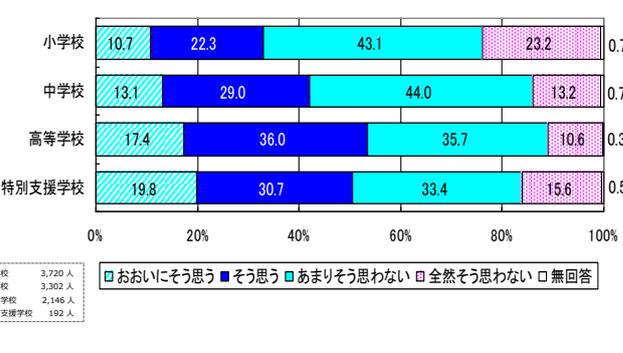


「先生に反抗することを悪いと思いますか」という質問に対して、年齢が上がるにしたがって悪いと思う児童・生徒が減少している。先生に反抗することを悪いと思う児童・生徒は、小学校で85.5%、中学校で70.5%、高等学校で50.8%、特別支援学校で68.8%であった。
 「先生に反抗することをおもしろいと思いますか」という質問に対して、おもしろいことと思う小学校、中学校の児童・生徒は、平成7年度に比べて減少している。

あなた自身、いらいらしていることが多いですか



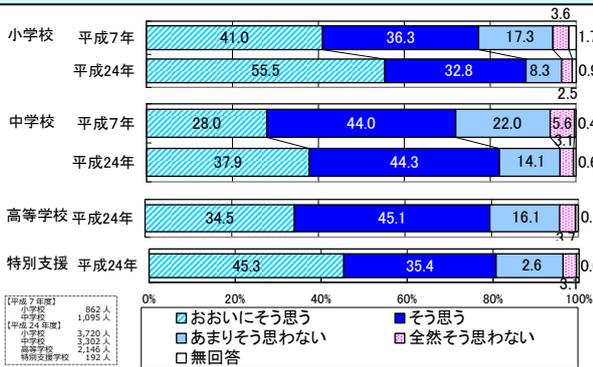
あなた自身、気持ちが沈んでいることが多いですか



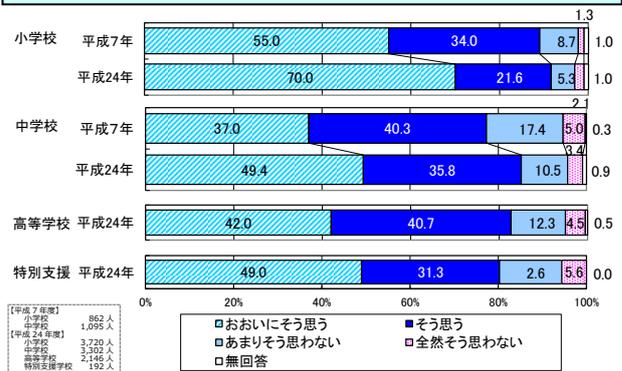
「いらいらしていることが多いですか」という質問に対して、「おいにそう思う」、「そう思う」と回答をした割合は、年齢が上がるにしたがって高くなった。平成7年度では、小学校で36.0%、中学校で45.0%であるのに対して、平成24年度では、小学校で42.3%、中学校で46.8%、高等学校で49.6%、特別支援学校で57.3%であった。

「気持ちが沈んでいることが多いですか」という質問に対して、「おいにそう思う」、「そう思う」と回答をした割合は、年齢が上がるにしたがって高くなった。小学校で33.0%、中学校で42.1%、高等学校で53.4%、特別支援学校で50.5%であった。

自分のことを大切に思ってくれる人に支えられて
生きているのだと思いますか



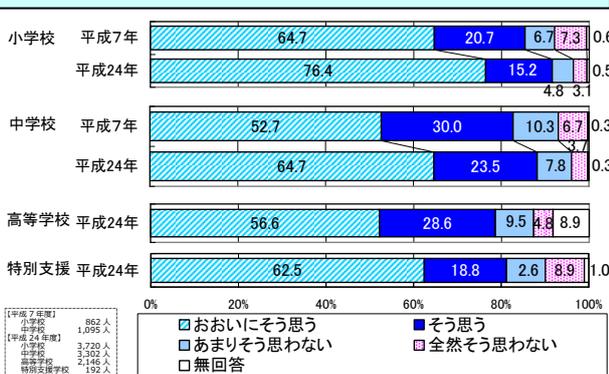
生きていることは素晴らしいことだと思いますか



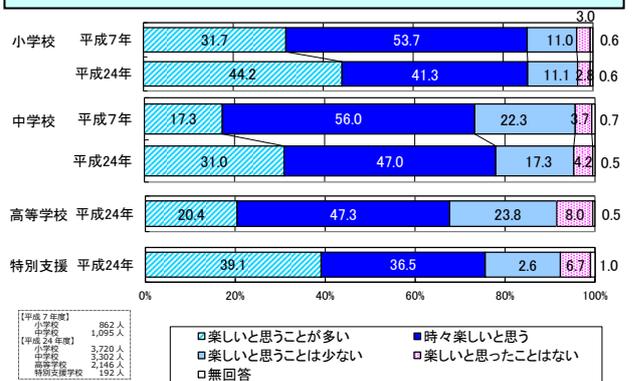
「自分のことを大切に思ってくれる人に支えられて生きているのだと思いますか」という質問に対して、平成7年度より「おおいにそう思う」、「そう思う」と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は高くなっている。平成7年度では、肯定的な回答は、小学校で77.3%、中学校で72.0%であるのに対して、平成24年度では、小学校で88.3%、中学校で82.2%であった。高等学校においても79.6%、特別支援学校で80.7%と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は高い。

「生きていることは素晴らしいことだと思いますか」という質問に対して、平成7年度より「おおいにそう思う」、「そう思う」と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は高くなっている。平成7年度では、肯定的な回答は、小学校で89.0%、中学校で77.3%であるのに対して、平成24年度では、小学校で91.6%、中学校で85.2%であった。高等学校においても82.7%、特別支援学校で80.3%と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は高い。

いじめられるのがつらくても自殺してはいけ
ないと思いますか



学校の授業は楽しいですか

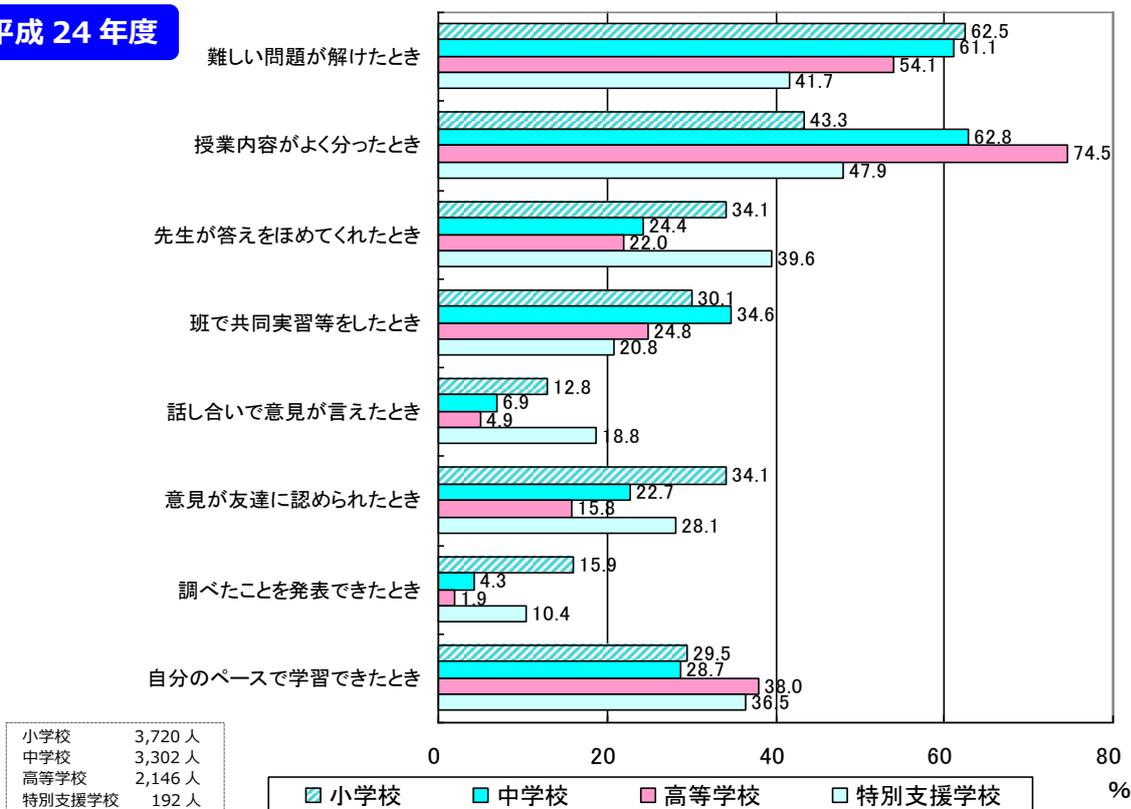


「いじめられるのがつらくても自殺してはいけない」と思いますかという質問に対して、「おおいにそう思う」、「そう思う」と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、平成7年度より高くなっている。平成7年度では、肯定的な回答は、小学校で85.4%、中学校で82.7%であるのに対して、平成24年度では、小学校で91.6%、中学校で88.2%であった。高等学校においても85.2%、特別支援学校で81.3%と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は高い。

「学校の授業は楽しいですか」という質問に対して、「楽しいと思うことが多い」、「時々楽しいと思う」と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、平成7年度より高くなっている。平成7年度では、肯定的な回答は、小学校で85.4%、中学校で73.3%であるのに対して、平成24年度では、小学校で85.5%、中学校で78.0%であった。高等学校においても67.7%、特別支援学校で75.7%と肯定的な回答をした児童・生徒の割合は高い。

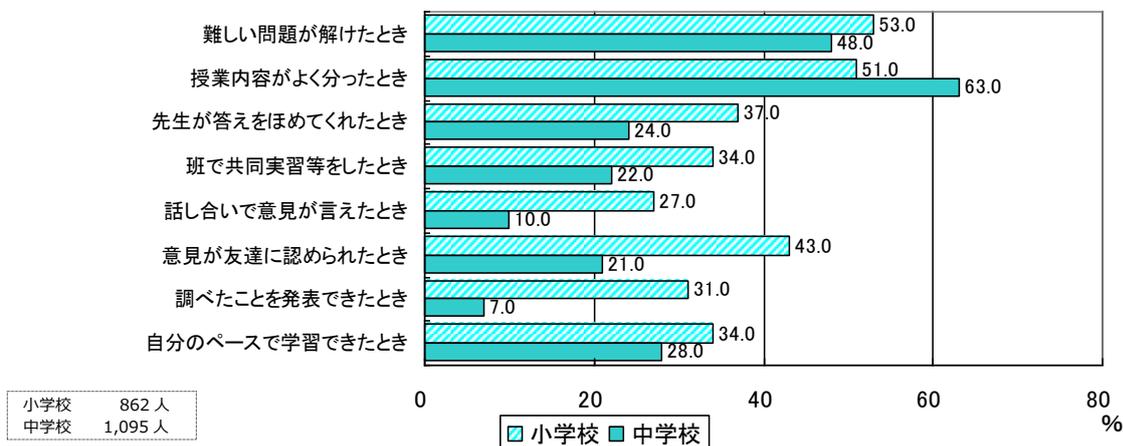
授業で楽しいと感じたときはどんなときですか

平成 24 年度



平成 7 年度

授業で楽しいと感じたときはどんなときですか



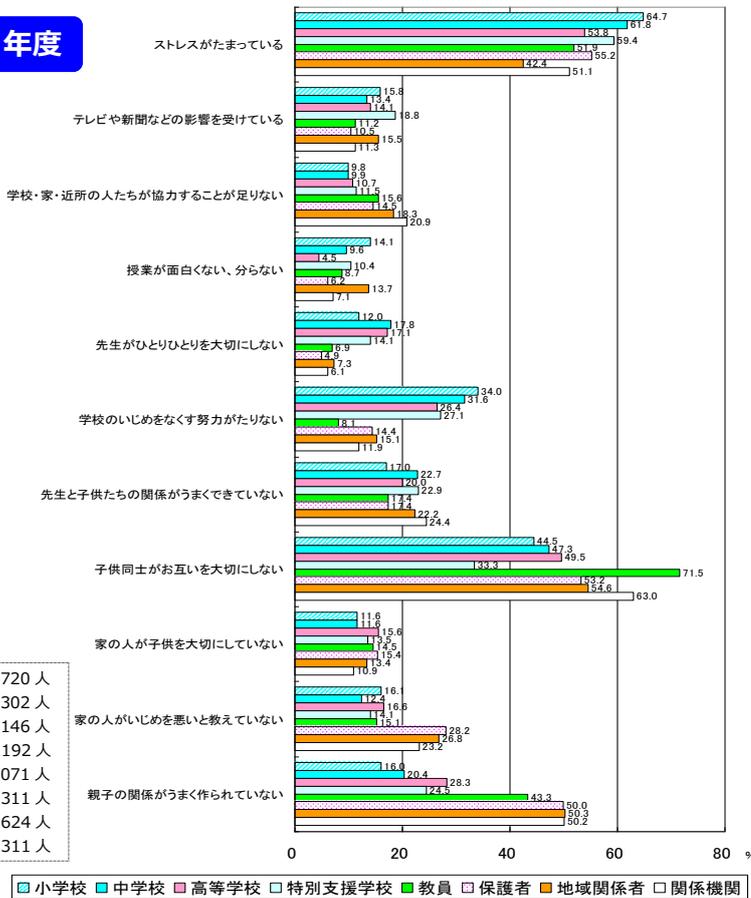
「授業で楽しいと感じたときはどんなときですか」という質問に対して、平成 7 年度、平成 24 年度ともに、「難しい問題が解けたとき」、「授業内容がよく分かったとき」と回答する児童・生徒の割合は高い。小学校においては平成 7 年度、平成 24 年度ともに、「難しい問題が解けたとき」「授業内容がよく分かったとき」と回答した児童の割合は、高い。中学校においても同様である。しかし、「班で共同実習等をしたとき」と回答した生徒は、平成 7 年度では 22.0%であったのに対して、平成 24 年度では 34.6%と増加している。

高等学校、特別支援学校では、「自分のペースで学習できたとき」と回答する児童・生徒の割合が、小学校、中学校より高い。

2 子供と大人の意識

いじめの背景や原因についてどのようなことがあると思いますか

平成 24 年度



小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人

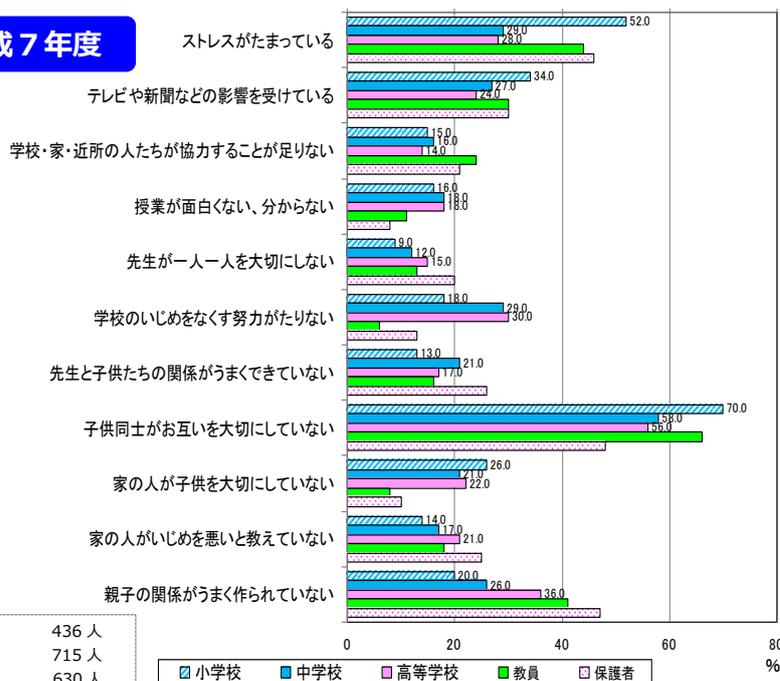
「授業で楽しいと感じたときはどんなときですか」という質問に対して、「ストレスがたまっている」、「子供同士がお互いを大切にしない」、「親子の関係がうまく作られていない」の回答の割合が平成 7 年度、平成 24 年度ともに高い。一方、「テレビや新聞などの影響を受けている」と回答した割合は、平成 7 年度に比べ、減少している。

「ストレスがたまっている」、「子供同士がお互いを大切にしない」では、平成 7 年度、平成 24 年度ともに児童・生徒と大人の意識に大きな違いは見られないが、「親子の関係がうまく作られていない」では、児童・生徒と大人の意識に開きが見られる。

また、平成 24 年度における「先生がひとりひとりを大切にしない」、「学校のいじめをなくす努力が足りない」の項目では、児童・生徒が大人より高い割合を示している。

一方で、「学校・家・近所の人たちが協力することが足りない」、「家の人がいじめを悪いと教えていない」では、大人が児童・生徒より高い割合を示している。

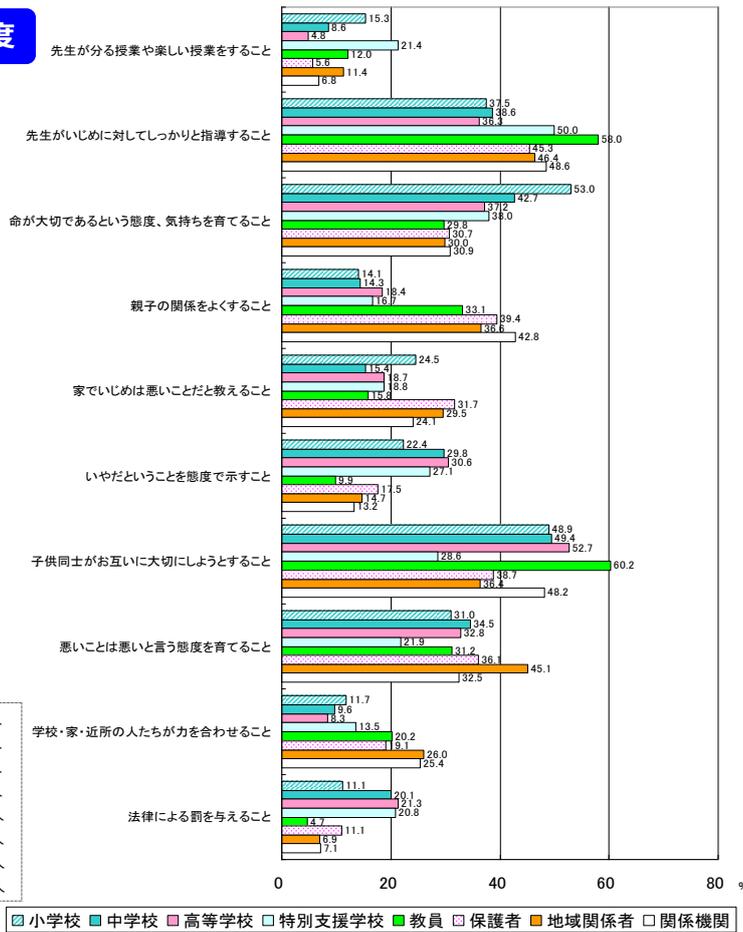
平成 7 年度



小学校	436 人
中学校	715 人
高等学校	630 人
教員	461 人
保護者	1,534 人

いじめの解消についてどのようなことがあると思いますか

平成 24 年度



小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人

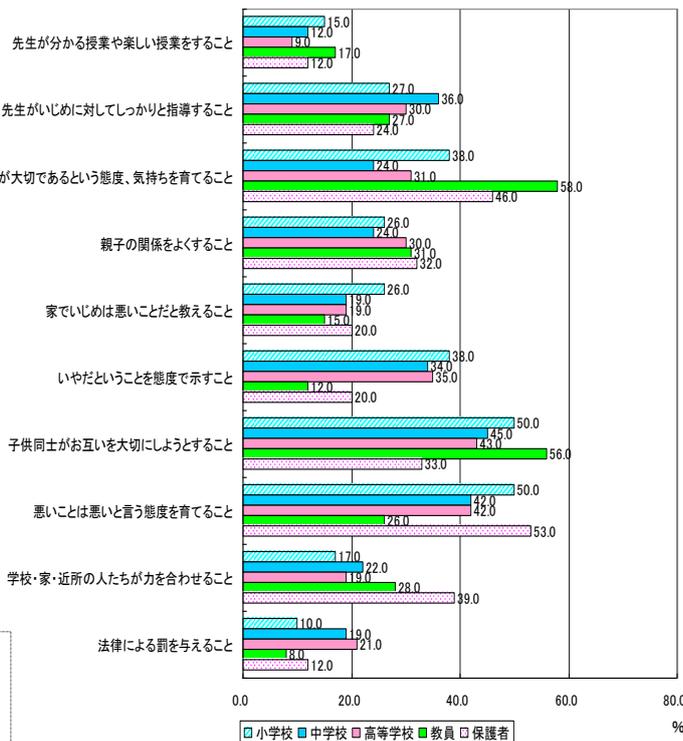
「いじめの解消についてどのようなことがあると思いますか」という質問に対して、「命が大切であるという態度、気持ちを育てること」、「子供同士がお互いに大切にしようとする」、「悪いことは悪いと言う態度を育てること」の回答の割合が平成 7 年度、平成 24 年度とも高い。

「先生がいじめに対してしっかりと指導すること」については、平成 7 年度よりも平成 24 年度の方が高い割合を示している。

平成 24 年度における児童・生徒と大人の意識の差に着目すると、「親子の関係をよくすること」、「学校・家・近所の人たちが力を合わせる」においては、児童・生徒より大人が高い割合を示している。

一方で、「命が大切であるという態度、気持ちを育てること」、「いやだということを態度で示すこと」、「法律による罰則を与える」においては、大人より児童・生徒が高い割合を示している。

平成 7 年度



小学校	436 人
中学校	715 人
高等学校	630 人
教員	461 人
保護者	1,534 人

「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますか

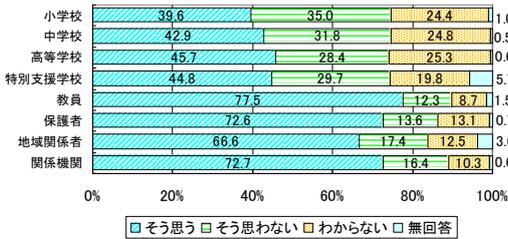
平成 24 年度

小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人

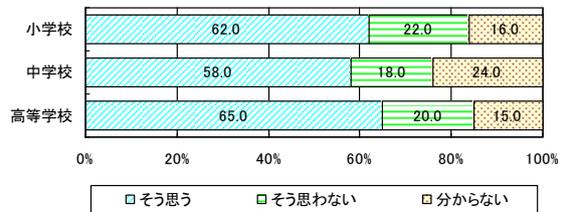
平成 7 年度

小学校	436 人
中学校	715 人
高等学校	630 人
教員	461 人
保護者	1,534 人

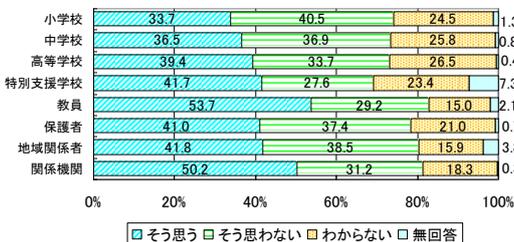
毎日の生活が面白くないと思っているから



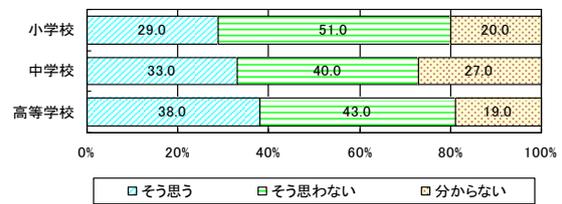
毎日の生活が面白くないと思っているから



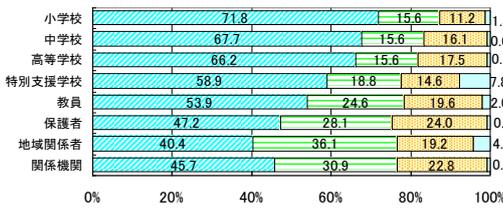
学校が面白くないと思っているから



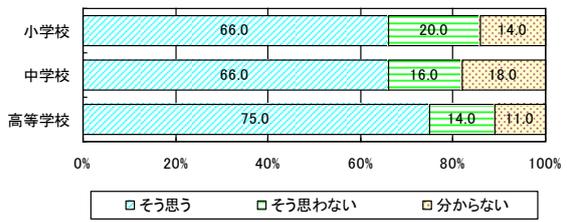
学校が面白くないと思っているから



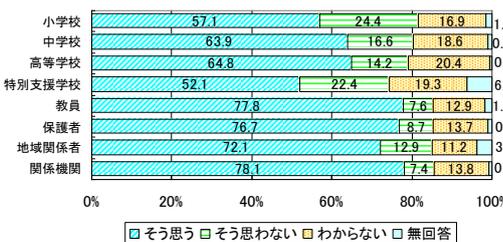
相手が嫌いだと思っているから



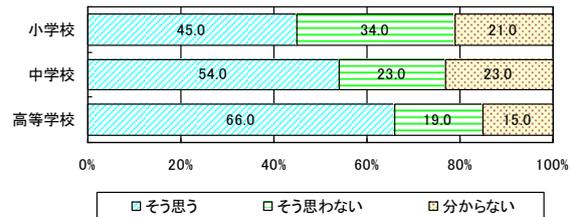
相手が嫌いだと思っているから



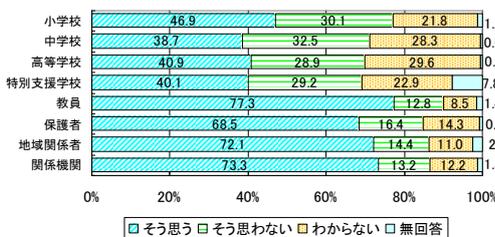
一緒にいないと自分がいじめられるから



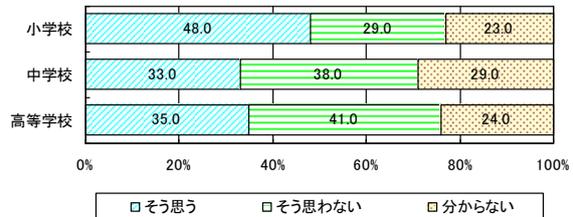
一緒にいじめないと自分がいじめられるから



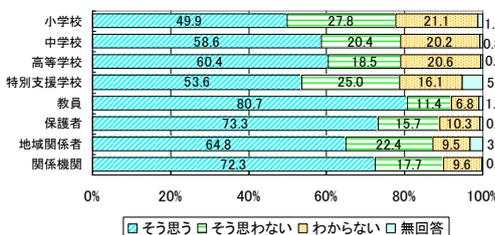
友達関係がうまくつけないから



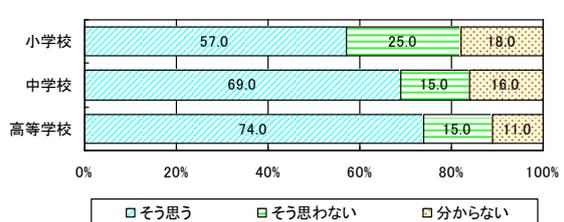
友達関係がうまくつけないから



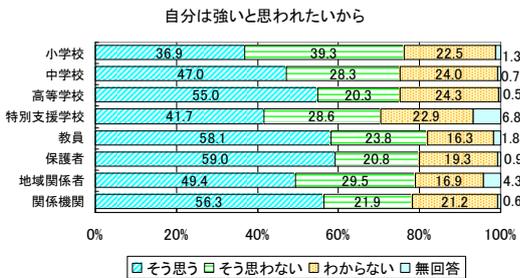
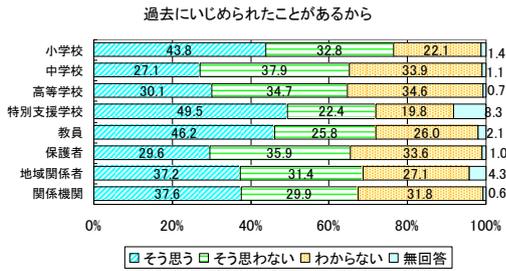
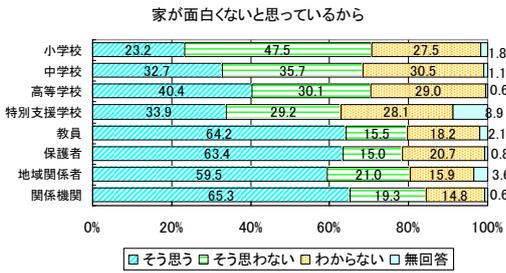
ふざけていると思っているから



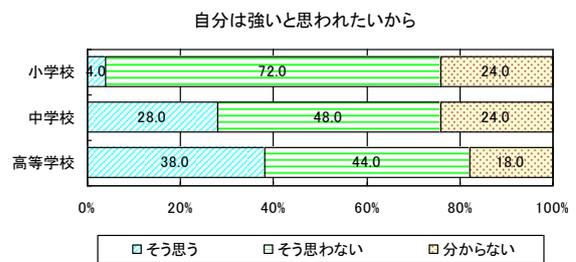
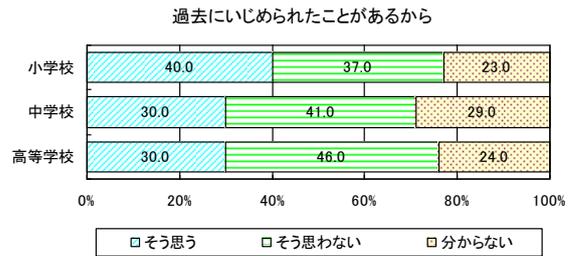
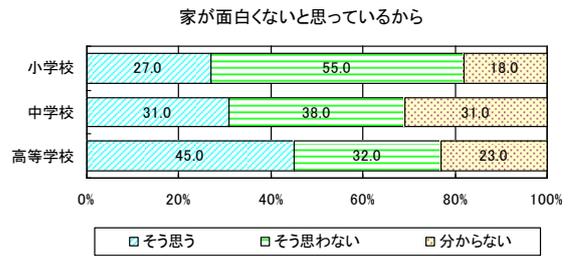
ふざけていると思っているから



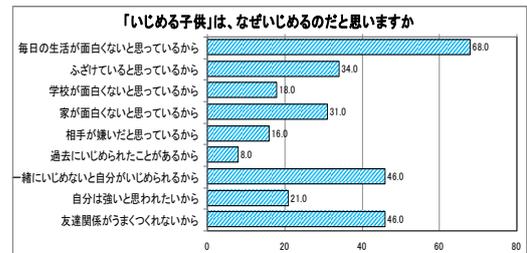
平成 24 年度



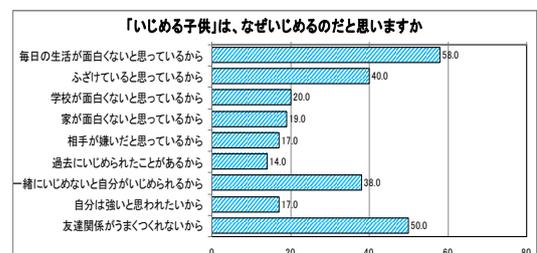
平成 7 年度



教員



保護者



「いじめる子供」はなぜいじめるとお思いますかという質問に対して、「相手が嫌いだと思っているから」、「一緒にいないと自分がいじめられるから」、「ふざけていると思っているから」の割合が平成 7 年度、平成 24 年度ともに高い。

「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますか

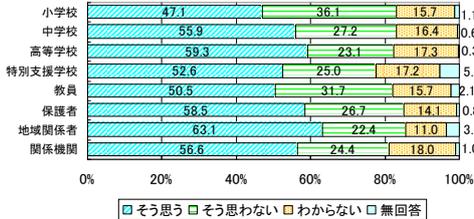
平成 24 年度

小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人

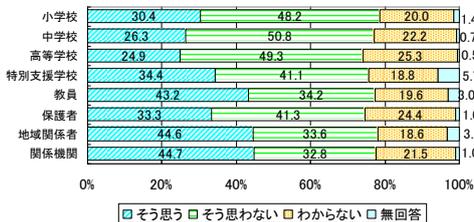
平成 7 年度

小学校	436 人
中学校	715 人
高等学校	630 人
教員	461 人
保護者	1,534 人

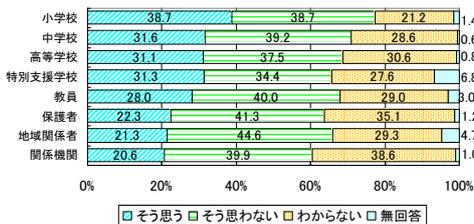
自分の意見をはっきり言わないから



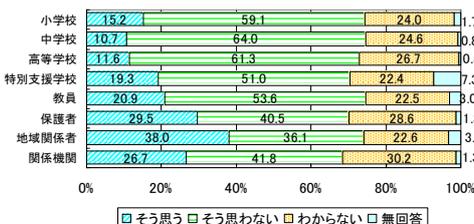
行動が遅いから



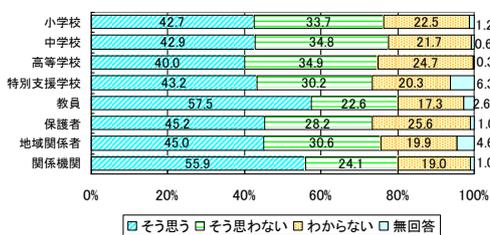
過去に友達をいじめたから



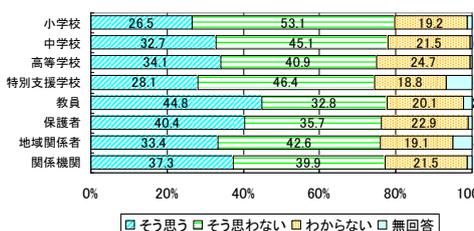
先生との関わりがが少ないから



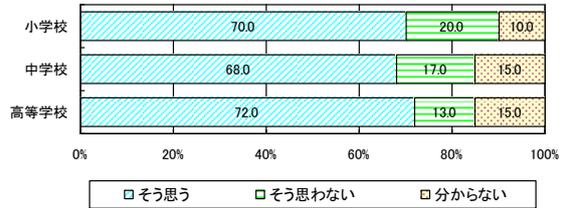
他の人と異なる点があるから



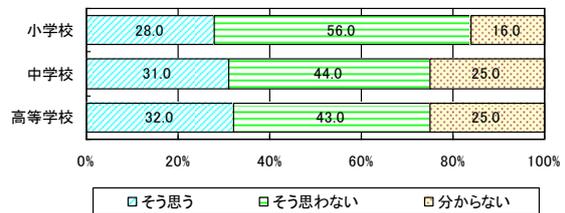
自分の意見をはっきりと言いつぎるから



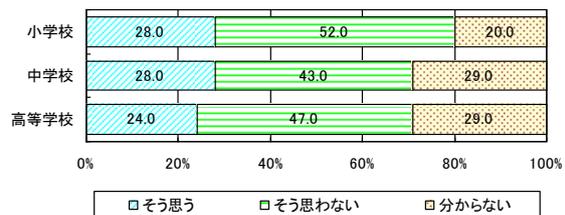
自分の意見をはっきり言わないから



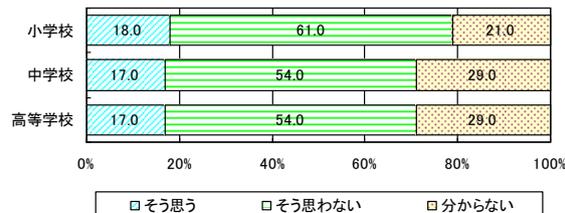
行動が遅いから



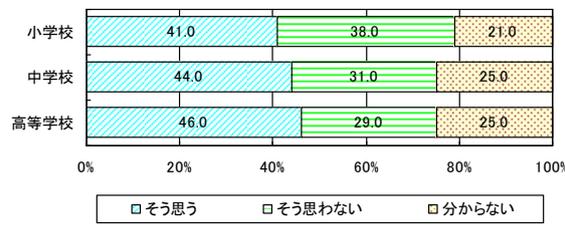
過去に友達をいじめたから



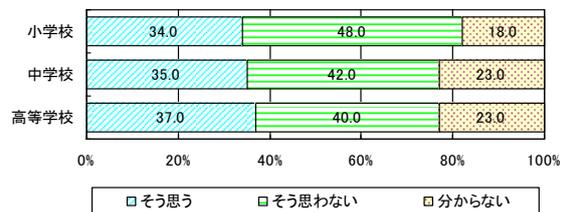
先生との関わりがが少ないから



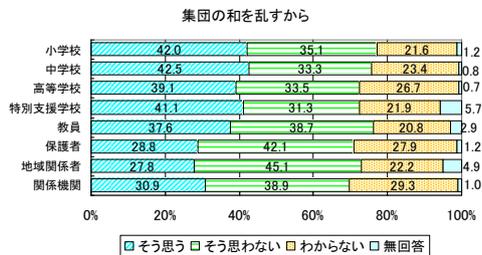
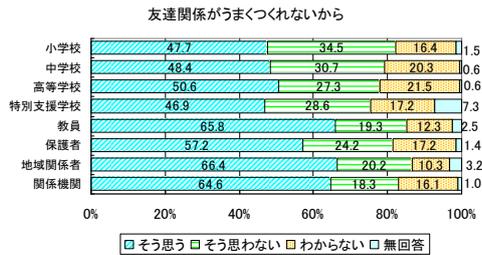
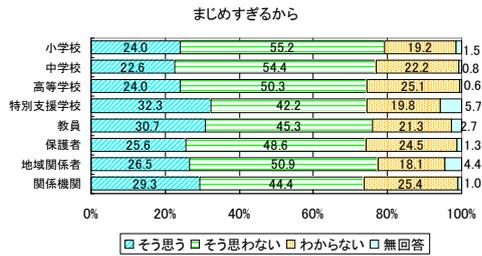
他の人と異なる点があるから



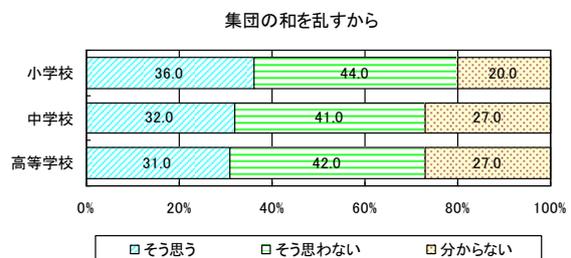
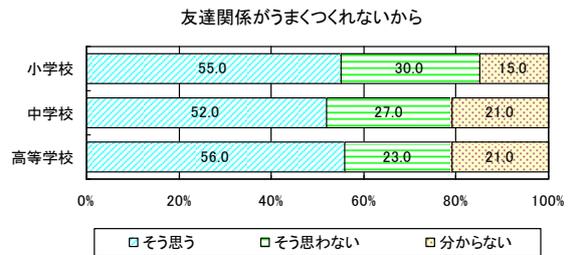
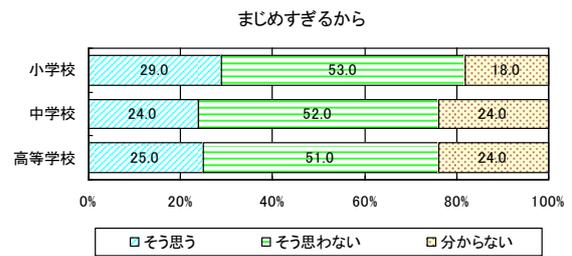
自分の意見をはっきりと言いつぎるから



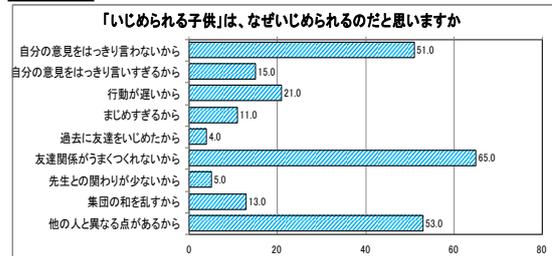
平成 24 年度



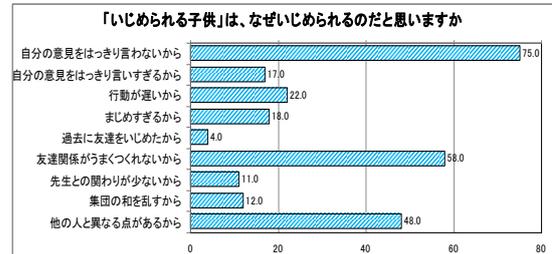
平成 7 年度



教員



保護者

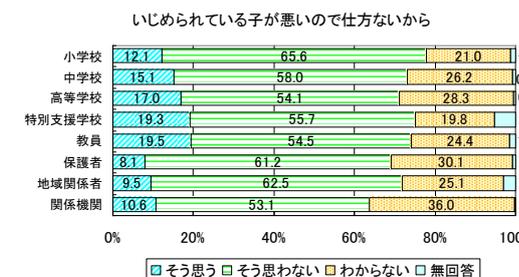
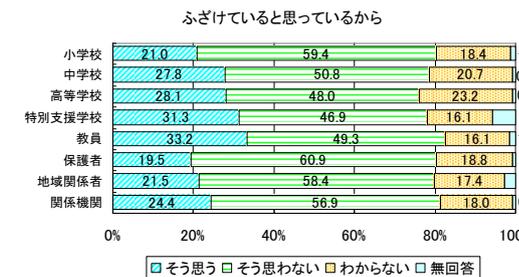
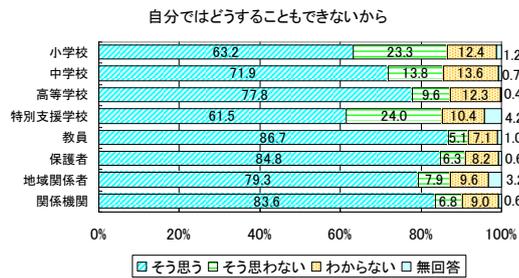
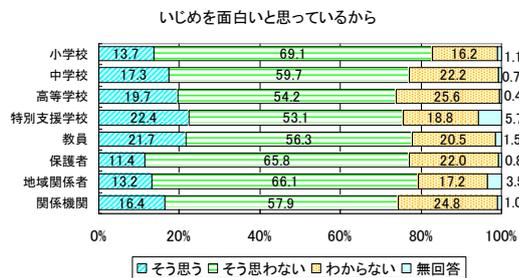
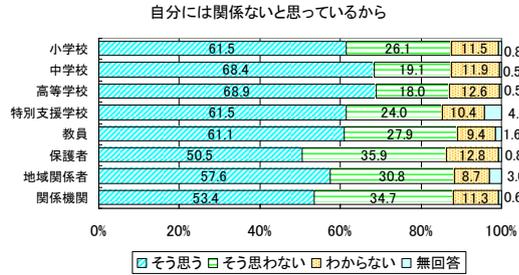


「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますかという質問に対して、「自分の意見をはっきり言わないから」、「他の人と異なる点があるから」、「友達関係がうまくつれないから」の割合が平成 7 年度、平成 24 年度ともに高い。

「いじめをめている子供」は、なぜ、いじめをめているのだと思いますか

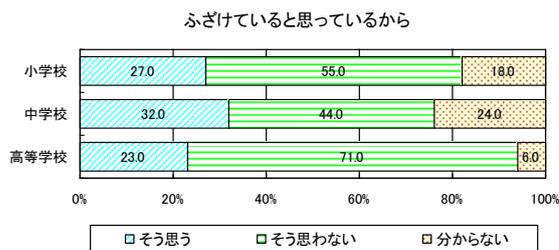
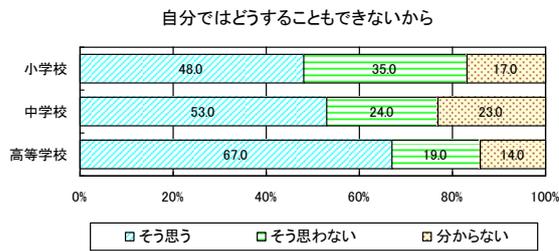
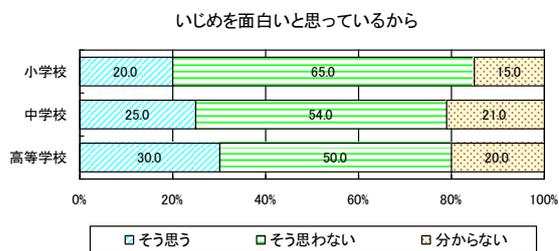
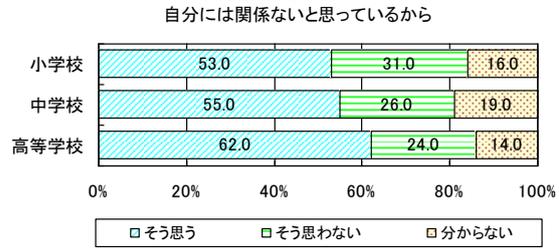
平成 24 年度

小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人



平成 7 年度

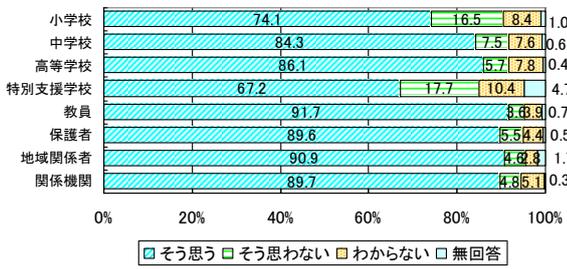
小学校	436 人
中学校	715 人
高等学校	630 人
教員	461 人
保護者	1,534 人



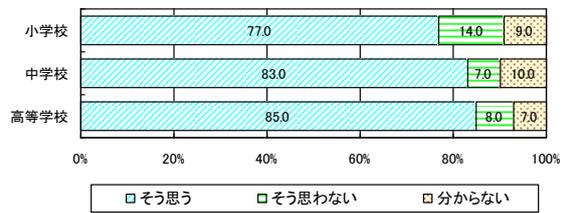
平成 24 年度

平成 7 年度

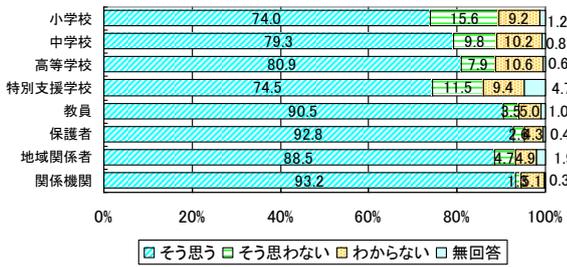
関わりをもちたくないから



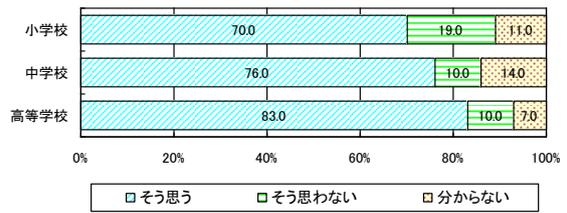
関わりをもちたくないから



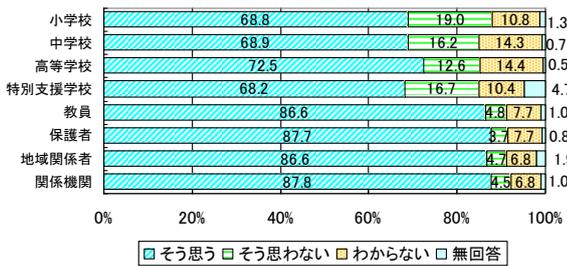
自分がいじめられたくないと思っているから



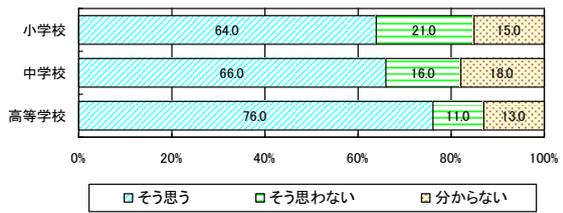
自分がいじめられたくないと思っているから



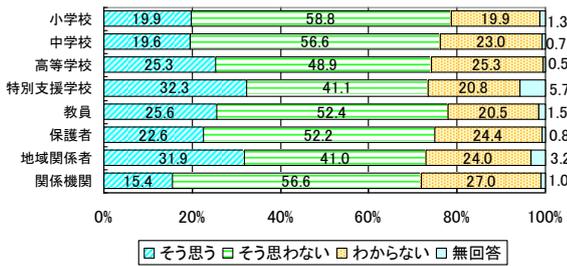
いじめているグループが怖いから



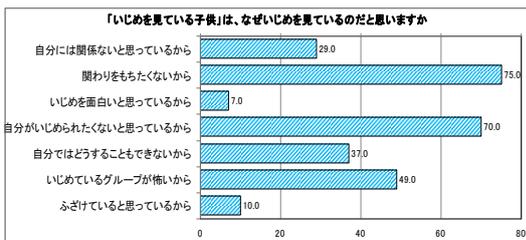
いじめているグループが怖いから



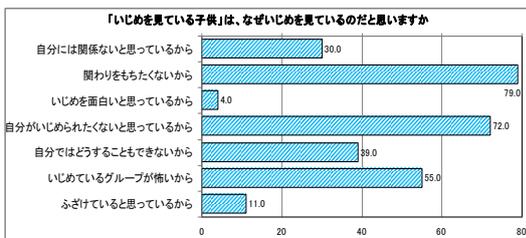
そっとしておいた方が傷つかないと思うから



教員



保護者



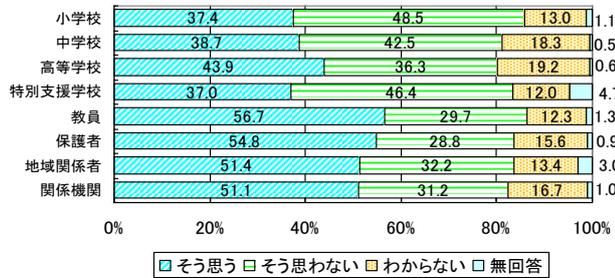
「いじめを見ている子供」は、なぜ、いじめを見ているのだと思いますか」という質問に対して、「自分には関係ないと思っているから」、「自分ではどうすることもできないから」、「関わりをもちたくないから」、「自分がいじめられたくないと思っているから」、「いじめているグループが怖いから」の割合が平成 7 年度、平成 24 年度ともに高い。

「いじめられていることを相談できない子供」は、なぜ相談できないのだと思いますか

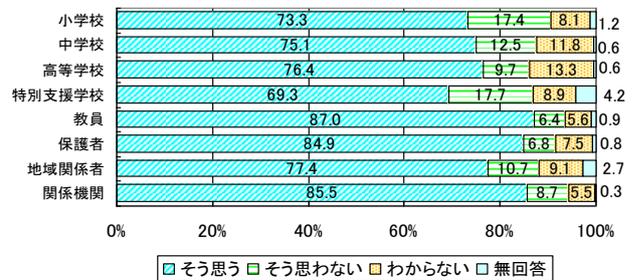
平成 24 年度

小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人

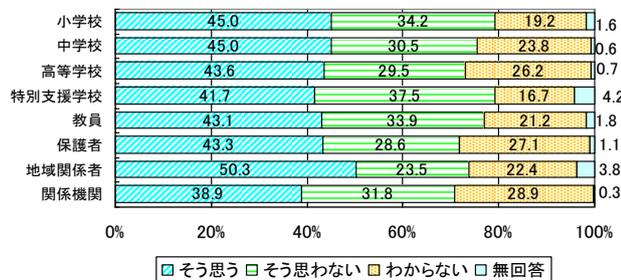
恥ずかしいから



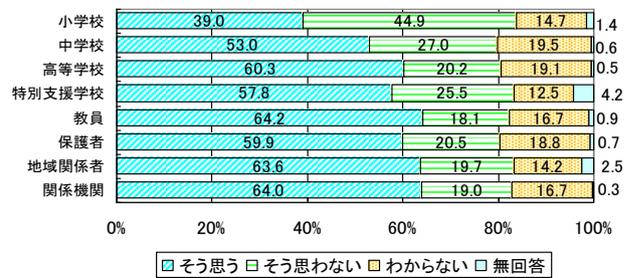
被害が悪化するから



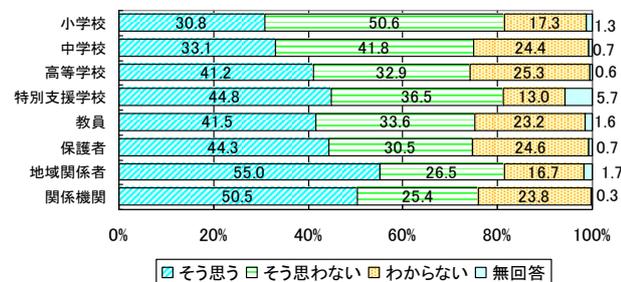
周りの人から普通に接してもらいたいから



誰かに言ってもいじめは解決しないから



誰かに相談したくても聞いてもらえないから

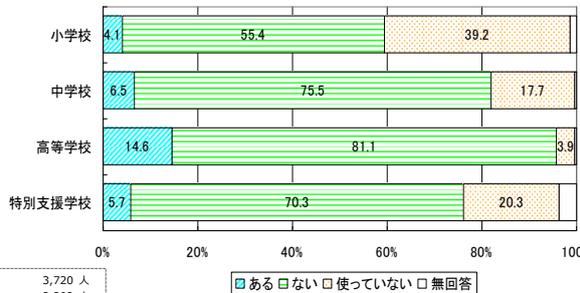


「いじめられていることを相談できない子供」は、なぜ相談できないのだと思いますか」という質問に対して、児童・生徒、大人ともに「被害が悪化するから」の割合が高い。
「恥ずかしいから」については、児童・生徒と大人との意識に違いが見られた。

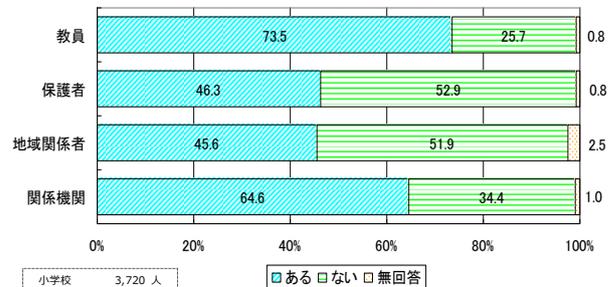
インターネットや携帯電話を使ったいじめや悪口などのトラブルに巻き込まれたことがある

インターネットや携帯電話を使ったいじめや悪口などのトラブルを見たり聞いたりしたことがある

平成 24 年度

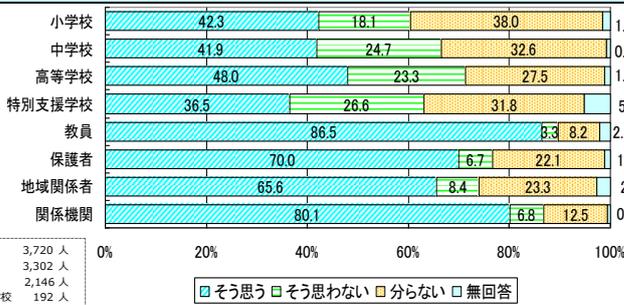


小学校 3,720 人
中学校 3,302 人
高等学校 2,146 人
特別支援学校 192 人



小学校 3,720 人
中学校 3,302 人
高等学校 2,146 人
特別支援学校 192 人

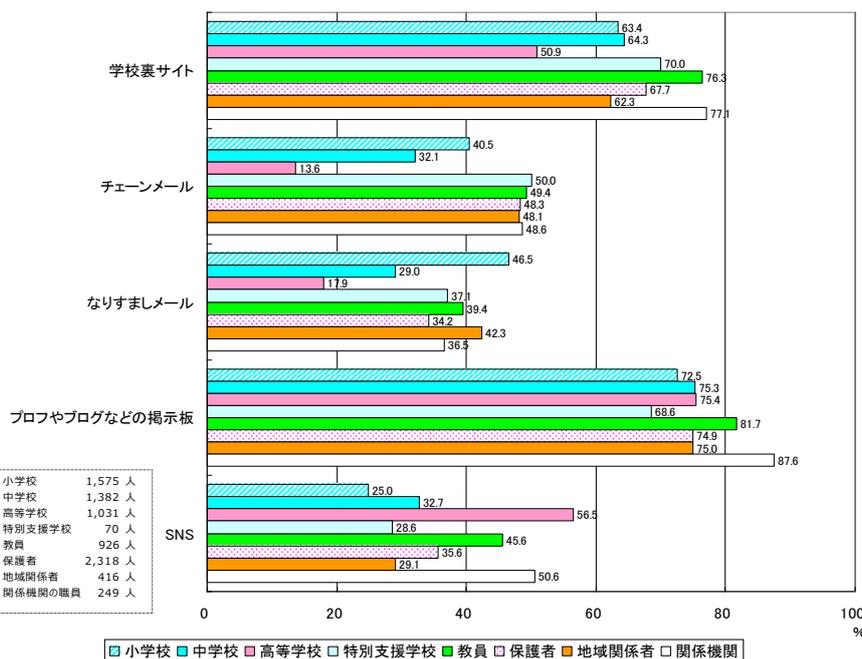
インターネットや携帯電話のメール等の使い方がいじめの原因や背景になることがある



小学校 3,720 人
中学校 3,302 人
高等学校 2,146 人
特別支援学校 192 人

「そう思う」と回答した児童・生徒、教員、保護者、地域関係者、関係機関の職員

何がいじめの背景や原因になると思いますか



小学校 1,575 人
中学校 1,382 人
高等学校 1,031 人
特別支援学校 70 人
教員 926 人
保護者 2,318 人
地域関係者 416 人
関係機関の職員 249 人

「インターネットや携帯電話を使ったいじめや悪口などのトラブルに巻き込まれたことがある」という質問に対して、「ある」と回答した児童・生徒は、小学校で 4.1%、中学校で 6.5%、高等学校で 14.6%、特別支援学校で 5.7%であった。

「インターネットや携帯電話を使ったいじめや悪口などのトラブルを見たり、聞いたりしたことがある」という質問に対して、「ある」と回答した大人は、教員で 73.5%、保護者で 46.3%、都民（地域関係者）で 45.6%、関係機関の職員で 64.6%であった。

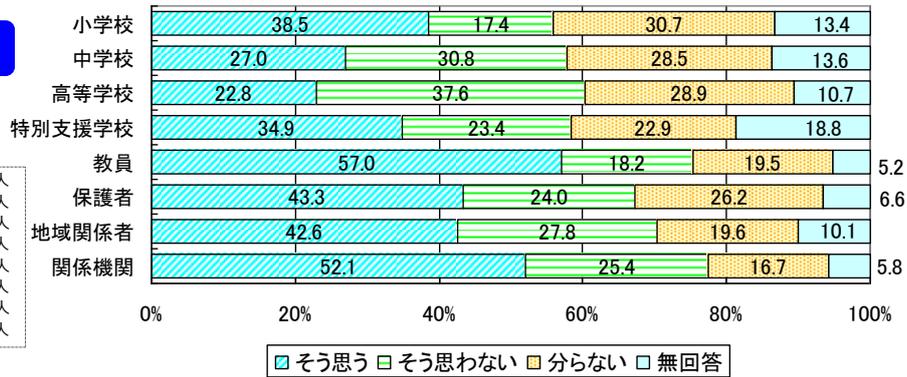
インターネットや携帯電話のメール等の使い方がいじめの原因や背景になることがあるという質問に対して、児童・生徒は、小学校で、中学校で、高等学校で、特別支援学校で、であるのに対して、教員で、保護者で、都民（地域関係者）で、関係機関の職員で、であった。子供と大人の意識に差が見られた。

児童・生徒のトラブルに巻き込まれた経験は、高等学校で 14.6%、それ以外の校種では 7%以下であることから、子供に「いじめの原因や背景になるのはインターネットや携帯電話のメール等の使い方だけではない」という意識があることが考えられる。

インターネットや携帯電話などのメール等のマナーやルールの徹底がいじめの防止や解決につながる

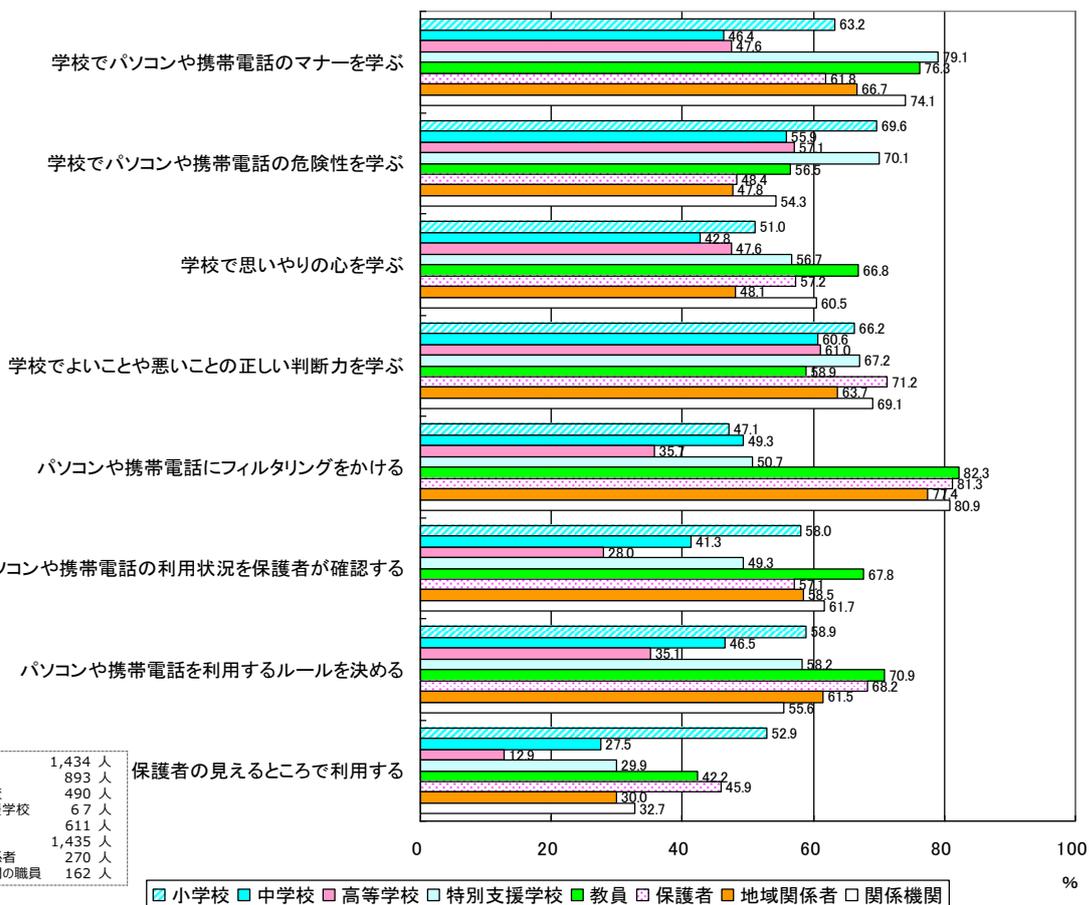
平成 24 年度

小学校	3,720 人
中学校	3,302 人
高等学校	2,146 人
特別支援学校	192 人
教員	1,071 人
保護者	3,311 人
地域関係者	624 人
関係機関の職員	311 人



「そう思う」と回答した児童・生徒、教員、保護者、地域関係者、関係機関の職員

何がインターネットや携帯電話を原因とするいじめ防止や解決につながるといいますか



小学校	1,434 人
中学校	893 人
高等学校	490 人
特別支援学校	67 人
教員	611 人
保護者	1,435 人
地域関係者	270 人
関係機関の職員	162 人

「インターネットや携帯電話などのメール等のマナーやルールの徹底がいじめの防止や解決につながる」という質問に対して、「そう思う」と回答した中で最も多かったのは教員で 57.0%、次が関係機関の職員で 52.1%であるのに対して、児童・生徒は小学校の 38.5%が最も多く、大人の意識に比べて児童・生徒の意識が低いことが分かった。

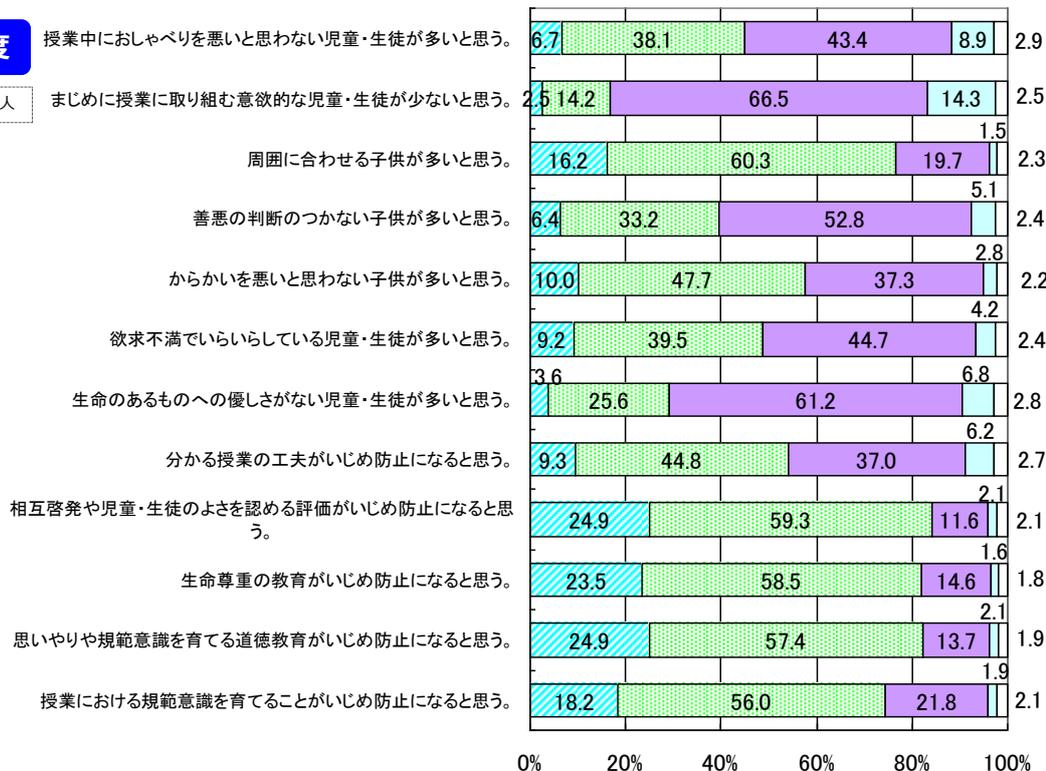
3 大人の意識

教員

学習指導に関する意識のうち、当てはまるものを選んでください

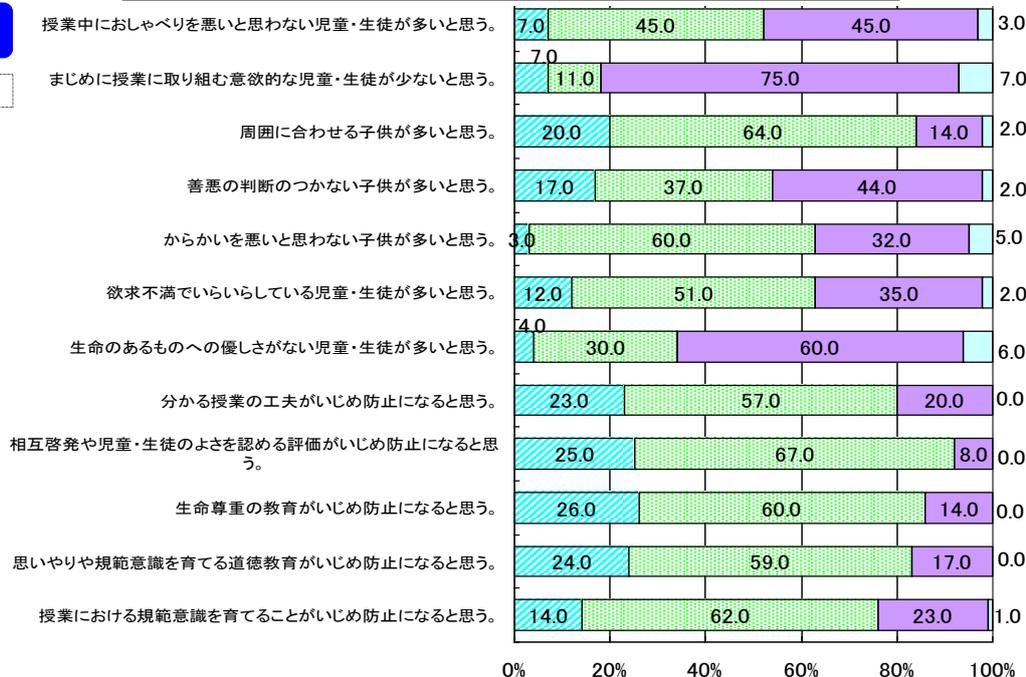
平成 24 年度

教員 1,071 人


 特にそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 全然そう思わない
 無回答

平成 7 年度

教員 461 人


 特にそう思う
 そう思う
 あまりそう思わない
 全然そう思わない

「分かる授業の工夫がいじめの防止になると思う」という質問に対し、「特にそう思う」、「そう思う」と肯定的な回答の割合が、平成7年度は80.0%に対し、平成24年度は54.1%と25.9ポイント下がっている。このことから、いじめの防止と授業とは別に捉えている教員が増えている、あるいは、授業だけではいじめの防止には十分な効果が得られないといった状況が生じていると考えられる。

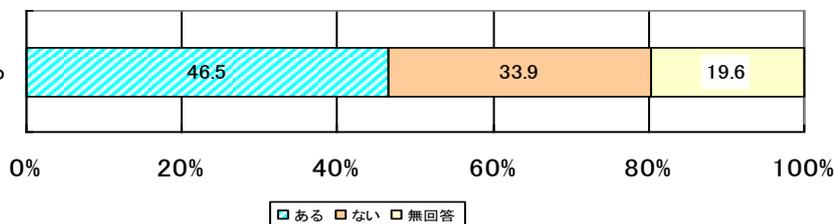
教員

いじめ問題を解決したことがありますか

平成 24 年度

教員 1,071 人

「いじめ問題」を解決したことがある

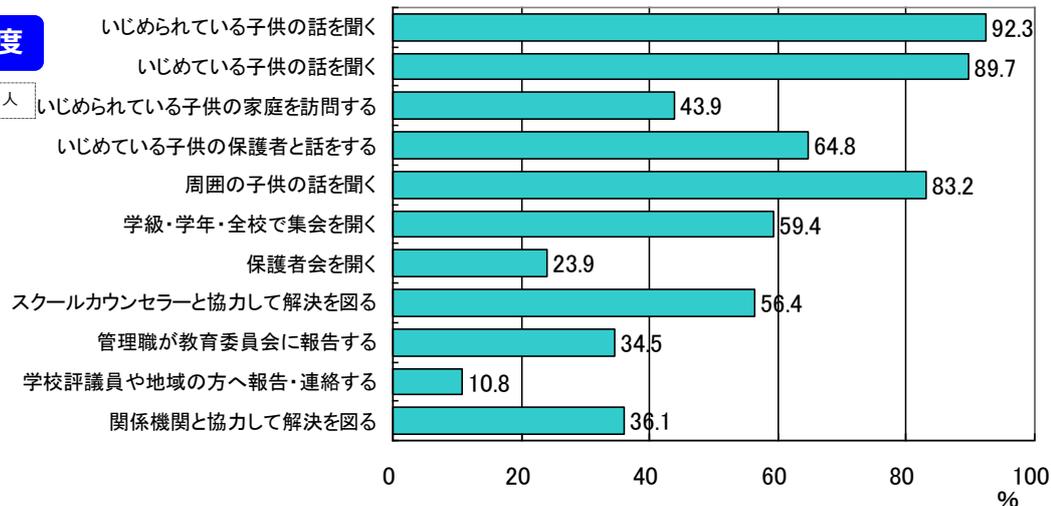


教員

学校でいじめがあったとき、学校ではどのような対応をしていますか

平成 24 年度

教員 1,071 人

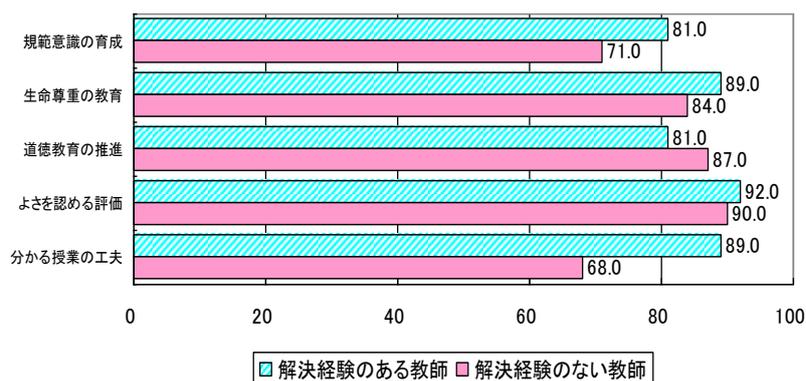


教員

「いじめ問題」の解決経験によって、教師の学習指導への意識はどう変わるか

平成 7 年度

教員 461 人



「いじめを解決したことがある」と回答した教員の割合は 46.5%であり、「解決したことがない」、「無回答」を合わせた割合は過半数となっている。「無回答」が約 20%であることは、いじめ問題が解決したかどうかの判断が非常に難しいことを表していると考えられる。

平成 24 年度におけるいじめ問題の学校対応は、「いじめられている子供の話を聞く」、「いじている子供の話を聞く」の加害、被害の両者の話を聞くことが共に約 90%であった。また、「周りにいる子供の話を聞く」は 83.2%であった。

平成 7 年度の調査からは、いじめを解決したことがある教師のほうが解決したことがない教師に比べ、学習指導への取組の意識が高いことが分かる。その中でも「規範意識の育成」では 10 ポイント、「分かる授業の工夫」では、19 ポイント増加している。

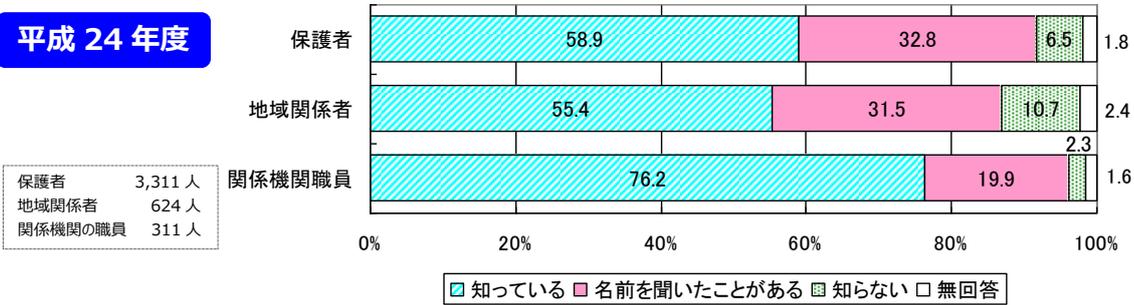
保護者

地域関係者

関係機関の職員

いじめに関わる相談機関として、東京都いじめ相談ホットラインや東京都児童相談センターなどの学校以外の相談機関があることを知っていますか

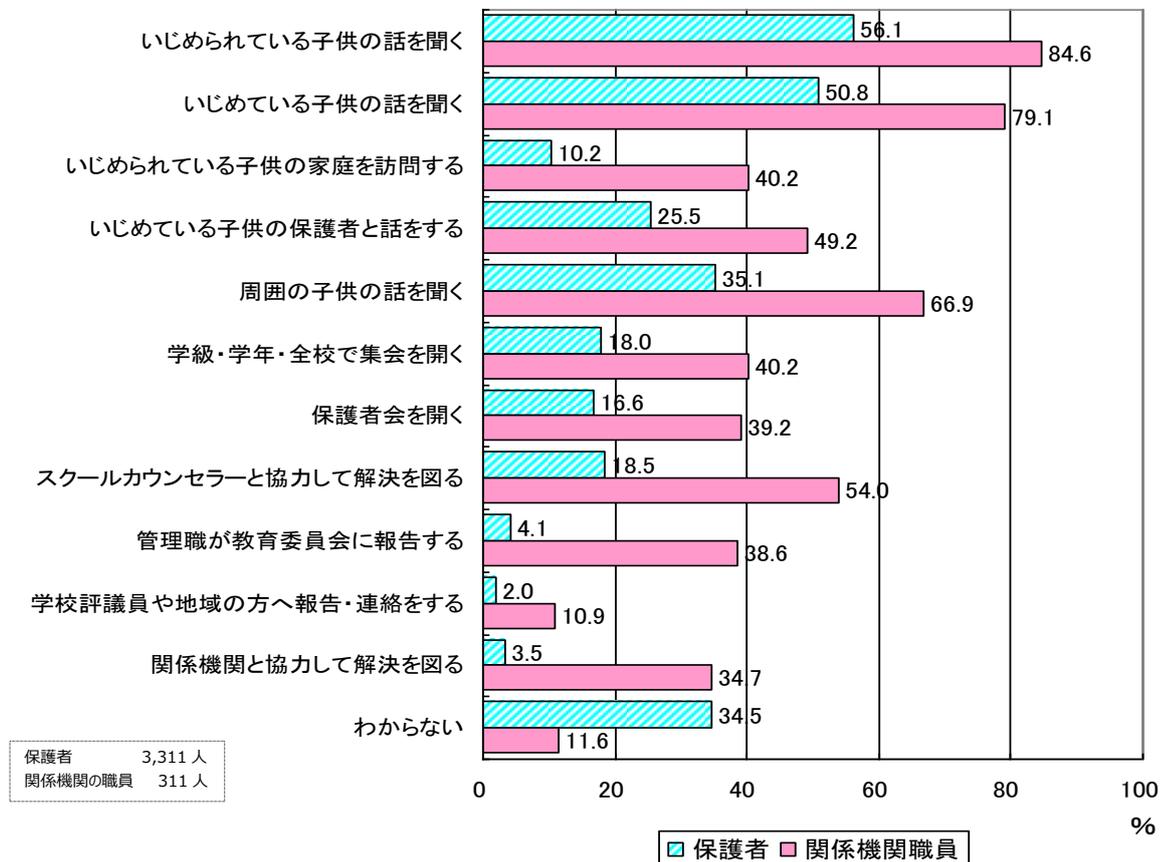
平成 24 年度



保護者

関係機関の職員

学校でいじめがあったとき、学校がどのような対応をしているか知っていますか



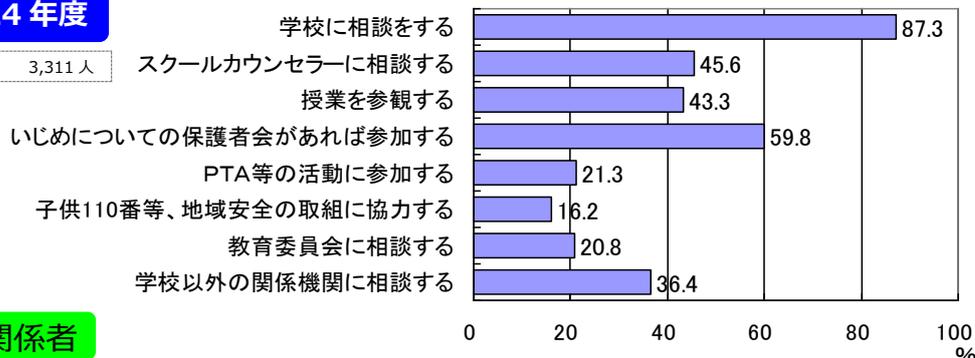
「学校でいじめがあったとき、学校がどのような対応をしているか知っていますか」という質問に対し、「いじめられている子供の話を聞く」、「いじている子供の話を聞く」は、共に保護者が50%以上、関係機関職員が79%以上であった。しかし、「周囲の子供の話を聞く」や「スクールカウンセラーと協力して解決を図る」は、関係機関職員は50%以上であるのに対し、保護者は30ポイント以上低くなっている。このことは、保護者は、「いじめは加害者と被害者との間で解決を図るものである」と考えている傾向があることが考えられる。また、学校が心理等の専門家であるスクールカウンセラーと連携して組織的に対応していることを十分に知らないことも考えられる。

保護者

学校のいじめ防止・解決のために、保護者として取り組もうと思うこと

平成 24 年度

保護者 3,311 人

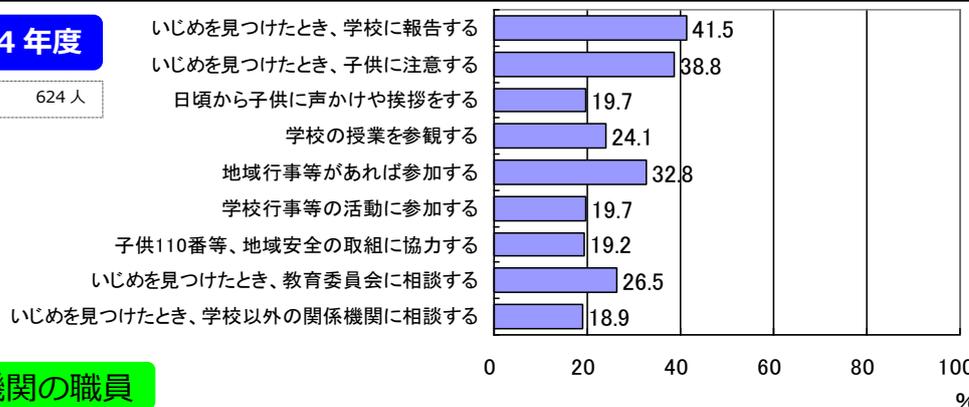


地域関係者

学校のいじめ防止・解決のために、地域関係者として取り組もうと思うこと

平成 24 年度

地域関係者 624 人

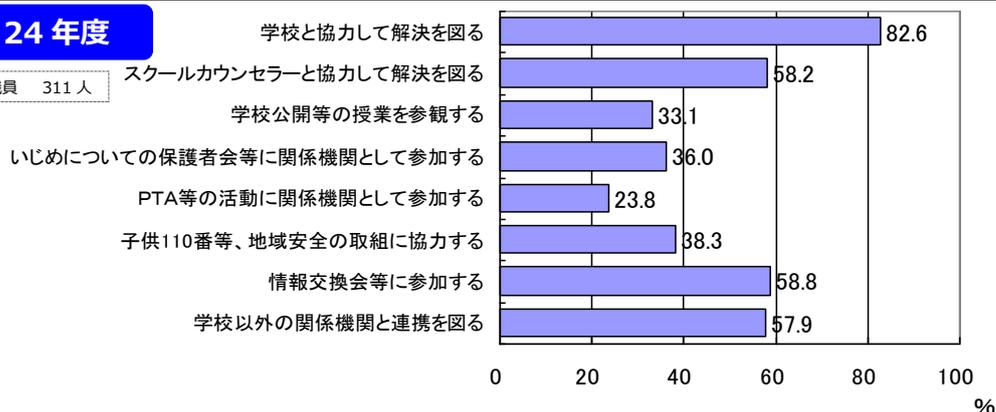


関係機関の職員

学校のいじめ防止・解決のために、関係機関の職員として取り組もうと思うこと

平成 24 年度

関係機関の職員 311 人



保護者は「学校に相談する」、関係機関の職員は「学校と協力して解決を図る」の割合が共に 80%以上であった。また、地域関係者は、「いじめを見つけたとき、学校に報告する」が 41.5%であり、最も高い割合であった。これらのことから、保護者、地域関係者及び関係機関の職員は、いじめ問題の対応に関して、学校との連携が重要であると考えていることが分かる。

保護者は「いじめ等について保護者会があれば参加する」、関係機関の職員は「情報交換会等に参加する」、地域関係者は「地域行事等があれば参加する」の割合が高いことから、教職員と会う機会を捉えて、子供の情報交換等を行うことが重要であると考えていることが分かる。